

# 結婚新生活支援事業の実施を



浅見 武志



町長

## 効果面から実施の是非を検討する

**質問** 内閣府は、少子化に歯止めをかけるには大胆な経済的支援が必要と判断し、「結婚新生活支援事業」に係る新婚生活の支援額を既存の30万円から60万円に拡充するとした。

**答弁** 「結婚新生活支援事業」は、結婚に伴う経済的負担を軽減するため、新婚世帯に対し、新生活のスタートアップに係るコストについて、国と市町村で支援額の一部を補助する制度である。対象となるのは、この事業を実施する市町村に住み、新たに婚姻届を出した夫婦で、初婚年齢が上がっている現状を踏まえ、年齢条件は39歳以下に緩和し、世帯年収も約540万円未満に拡大、補助率も3分の2に引き上げる方針だ。

**質問** 当町も少子化対策としてこの支援事業を行うべきと考えますが、町長の見解を問う。

**答弁** 町長 少子化対策は重要施策であり、結婚から子育てまでの総合的対応が必要である。町長の見解を問う。

あると認識している。この交付金事業が結婚への支援事業であることから、事業の効果発現を研究し、実施の是非を検討していく。

## 両水跡地周辺の開発を

**質問** 現在の両水跡地は大きな道路に面していないため、開発は難しい。そこで、西側の約5000平方メートルの土地を足して1万平方メートルで開発してはどうか。

**答弁** 町長 早い開発ということであれば、開発許可要件に該当する流通業務系の土地利用などが挙げられるが、道路を挟んで西側に中央小学校や文化センターなどがあるため、住環境への影響が懸念される。

**質問** 町としては、両水の跡地という条件をうまく活用できるように、県の関係機関と協議・相談を行い、目指す土地利用方針や農地保全の考え方などの整理を行いながら、可能な土地利用を考えたい。



両水跡地周辺

**こんな質問もしています**  
中央児童館の建て替えについて、鯉沢に溝蓋を設置し、その上を遊歩道整備してはどうか

# 職員提案制度の実施状況は



月田 均



町長

## 今年度は3件の応募があった

**質問** 職員提案制度の目的は何か。また実施状況はどうか。

**答弁** 町長 職員の業務に関する研究心の向上及び能力向上を図るとともに、町政に対する職員の参加意識を高め、活力ある町政の推進を図ることを目的としている。今年度については3件の応募があった。

**質問** 職員の知恵を引き出し、町政に貢献する提案制度を積極的に進めてほしいが、残念ながら応募が少ない。難しいことではなく、身近なことでも提案すべきことは多くあると思う。

**答弁** 総務課長 職員が業務の中で感じる改善点等はいくつもあるが、現状はそれを職員提案制度として出すのではなく、各自が日々創意工夫しながら住民サービスの向上に取り組んでいると考えている。

## フォトコンテストの毎年実施を求む

**質問** 住民に好評で、楽しみにしている人も多いフォトコンテストが、次回からは隔年の実施となる。その経緯は。

**答弁** 町長 ここ数年応募数が伸び悩み、作品に偏りなどがあることから実行委員会と協議し、十分な周知期間と撮影期間を確保するため、2年周期で実施することとした。



のどかな麦刈り後の田圃の風景

**質問** 隔年にしても応募数が増加するかわからず、写真に偏りがあるとも思えない。また、隔年にする事で事業が削減する不安も感じる。毎年に戻せないか。

## 災害時における情報伝達の現状と今後は

**質問** 町の災害時における住民への情報伝達の現状は。また今後のあるべき姿は。

**答弁** 町長 広報車、メルタまみ等により行い、情報弱者に対しては自主防災組織等の声かけが主体となっている。今後は「逃げ遅れゼロ」を目指し、適切な方法を導入したいと考えている。

**こんな質問もしています**  
道路に設置してある減速帯の変更理由について